

CAESAR NEWSLETTER

第16号 2019年1月

土木研究所構造物メンテナンス研究センター
〒305-8516 つくば市南原1-6
電話029-879-6773
e-mail: caesar @ pwri.go.jp
http://www.pwri.go.jp/caesar/index-j.html

年頭のご挨拶

構造物メンテナンス研究センター長 西川 和廣



明けましておめでとうございます。年頭にあたりご挨拶申し上げます。

土木研究所構造物メンテナンス研究センター（CAESAR）は昨年、平成20年4月の設立から10周年を迎えました。

土木研究所では、平成28年度から6カ年にわたる第4期中長期計画に基づき、研究開発に取り組んでおります。CAESARでは、中長期計画に掲げられた3つの目標のうち、「安全・安心な社会の実現」「社会資本の戦略的な維持管理・更新」を中心に、道路橋のメンテナンスサイクルの効率化に加え、道路建設の生産性向上・省力化にも資することに配慮しながら研究開発に取り組んで参りました。これらの研究成果は、技術論文や土木研究所資料等の報告書による公表や、CAESAR講演会、日米橋梁ワークショップ他各種研究集会、シンポジウム等で広く発信するとともに、道路橋示方書等関連技術基準の策定・改定にあたっての基礎資料となっております。本年は第4期中長期計画の折り返しの年であり、残りの期間において、社会のニーズに適切に答える多くの研究成果が得られるよう、研究開発に取り組む所存です。

昨年は、橋梁を取り巻く環境において、多くの出来事がありました。6月の大阪府北部地震をはじめ、7月豪雨、北海道胆振東部地震、9月上旬の台風による強風、高潮など多数の災害の発生、船舶の衝突による関西国際空港連絡橋や大島大橋の損傷など予期せぬ損傷の発生がありました。CAESARでは現場に職員を派遣し、損傷した橋梁の被災状況の分析や復旧に関する助言等を行いました。

さらに、CAESARでは、国土技術政策総合研究所と連携して、各地方整備局や自治体の

管理する橋梁での不具合や新設橋の設計に対する技術指導等を行うとともに、その過程で得られた知見をとりまとめ各地方整備局の橋梁担当者を集めた橋梁担当者会議等を通じて、現場にも情報提供や留意点等の助言を行って参りました。本年もこれらの活動を引き続き行い、全国の橋梁の長寿命化に貢献して参る所存です。

また、昨年から「AIを活用した道路橋メンテナンスの効率化に関する共同研究」を公募し、25者の参加を得て、共同研究を開始しました。近年のインフラの老朽化が喫緊の課題となっている一方で、老朽化橋梁の増加に伴う点検コストの増大や橋梁に関する専門知識を持った熟練技術者の減少などの問題が顕在化しており、より効率的な維持管理が求められています。そこで、急速に発展しているAI技術に着目して、点検と診断の両面からAIを活用し、メンテナンスサイクルにおける点検・診断・措置の信頼性および生産性の向上を目指して、研究開発に取り組んで参ります。

CAESARでは、過去10年の活動を通じて社会のニーズに答える多くの研究成果を生み出してきました。11年目からの活動では、道路橋メンテナンスの総本山として、「現場支援」、「研究開発」、「情報交流の場」というCAESAR本来のミッションを着実に果たすよう、職員一同たゆまざる努力を続けて参ります。本年も皆様のご理解とご協力をお願いいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。